



SNSでは作品の紹介や製作活動を通して感じた事を発信。きれいな写真と真っすぐな言葉は、見る人の心を動かします



### ビーチグラス

海岸で見つかるガラス片。海岸の岩や石などによって砕け、長い時間自然の波や砂に揉まれ、角が取れてかけらとなったもの



### アップサイクルアクセサリー

古くなった物や捨てられる物に、新たな価値を与えて別の物に生まれ変わらせる事をアップサイクルと言い、近年ではサステナブル(持続可能)なモノ作りの新たな方法論の一つとして注目されています。その方法で作られたアクセサリーはアップサイクルアクセサリーと呼ばれています

### POWERCHARM® (パワーチャーム)

ビーチグラスに色を入れる技法として2020年に商標登録された技法



海に出かける時は家族と一緒に。ビーチグラスを探しながらごみ拾いも行うようになって、子どもたちがごみの問題に関心を持つようになったそう

### 制作にかける想い

家族にとって宝物のような時間を過ごしながら拾い集めたビーチグラス。櫻井さんの手によって形を変えて再び輝き始め、それがまた誰かの宝物へと生まれ変わります。

アクセサリーの箱に同梱されているメッセージの先頭に書かれているのは『環境を少しでも考える』という言葉。櫻井さんが市販のビーチグラスを使わず自ら海で拾ってきたり、消毒剤を使用せず煮沸・日光消毒する方法を選ぶのは、この『環境を少しでも考える』という想いが作品作りの根底にあるからこそ。その想いが作品づくりの全工程に反映されています。

「このアクセサリーを身に着ける事で急に何かが変わるわけではないけど、例えばサステイナブルな事の全部はできな

櫻井さんがこのアップサイクルアクセサリーと出会ったのは約1年前。お客様の一人がビーチグラスに色を入れる技法「パワーチャーム」の考案者だった事がきっかけでした。

「彼女の作品を見た瞬間、色と光が透過している様子が、すごく惹き込まれてしまって・・・あまり、物事にすぐ飛びつくタイプではないんですけど、その時は本当にやってみたいと思ってすぐに始めました。」

### 試行錯誤の末、独自の技法を生み出す

パワーチャームの技法を学んだ櫻井さんは、さらに自分にしか作れないオリジナルのアクセサリーづくりを模索し始めます。

「コロナ禍で自宅のできるアトワークは今、注目されている分野。パワーチャームは新しい技法ですが、これからこの技法に付加価値をつけた新しいものが生まれてくると思うんです。だから誰もできない事を先にやろうと思って、試行錯誤を重ねました。」

繊細な材料を扱うため、失敗を繰り返しながらも、あきらめずに挑戦し続けた結果、パワーチャームにステンドグラスの技法であるハンダを組み合わせるといふ、櫻井さん独自の技法を生み出すことに成功しました。



独自の技法に不可欠な道具の数々。「練習に練習を重ね、適切な温度、スピード、材料を決めていきました。誰かに教わるのではなく、自分で答えを出すこと。これがすごく大切なんだと思います」

くても興味は持っているよ、という意思表示になったり。お客様の考えと身に着けるアクセサリーがリンクして、それがほかの誰かに伝わっていけば良いという気持ちで制作しています。」

櫻井さんは作品や活動に対する想いをSNSを通じて発信しています。きれいな写真とまっすぐな言葉で綴られた文章は、読む人にとって環境の事を考えるきっかけになるかもしれません。

### 今後の展望

「ネイリストとしては、お客様が安心してお手元、お足を預けてくださるようになら続けたいと思っています。美しさだけではなく、生活に沿ったご提案をしていきたいです。深爪や、巻き爪、亀裂のお直し、お年を召した方の爪切りなどもしていきたい。アクセサリーアーティストとしては、

### 制作の根っこには家族の存在

アクセサリーとなるビーチグラスは、ご主人と三人のお子さんと一緒に海へ行き、一つ一つ拾います。「最初は、まったく見つかりませんでした。その代わりに砂浜にごみがたくさん落ちていた事に初めて気が付いて、それからビーチグラスを拾う時は、海のごみ拾いも家族と一緒にやろうになりました。」海に行く時は車中泊をして、家族みんなで旅行気分を楽しんでいるという櫻井さん。

「子どもの年齢差があるので、家に行くと遊ぶ内容が結構違うんです。でも海に行く時、不思議とみんな同じ方向を向いて遊べるっていう事にも気が付きました。」

自分のペースでアトワークをしながら、今後はパワーチャームのスクールもしていきたいと考えています。また、ハンダを使ったアクセサリーのワークショップなどにもチャレンジしてみたいと思っています。」

ネイリストとして相手の希望を忠実に叶えていく時間と、アクセサリーアーティストとして自分の作りたい物を形にしていく時間。環境について考えるマクロな視点と、身近な人に寄り添う事のできるミクロな視点。両極端にあるところを軽やかに行き来しながら、さまざまな視点で物事をしっかりと見つめる櫻井さん。「環境を少しでも考える」という想いが、櫻井さんの作品や言葉をきっかけに、少しずつ広がりは始めています。



**fullmoon**  
プライベートネイルサロン / アクセサリーブランド hin  
fullmoon アトリエ  
利根町布川 2524-22 鯛焼き屋 Green2F  
月水木金 10:00 ~  
instagram ▶ @fullmoon\_natsu  
▶ @hin\_fullmoon  
LINE ▶

